

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2015年9月号 通巻81号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2015

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

タヌキに話は通じるか？

何考えてるかわかんないです



本文とは別の日のタヌキ家族。(左)最初にお母さんが現われ、やはり無言でエサを要求。(右)その後、ネコエサ目当てに子どもたちが団体でやって来た(2015年9月、文京区)。

イヌやネコを飼っている方なら、「あ、こいつ今私がしゃべったことを理解したな」と思うことが必ずあるはず。彼らが本当に言語を理解しているとは思えませんが、確かに意思が伝わったと感ずることがあります。では、タヌキとは意思疎通はできるのでしょうか。

表情が読めない…

タヌキを直接観察してわかるのは、表情が乏しいということです。まあ、これはどの野生動物でも似たようなものですが。イヌだったら吠えたり、しっぽを振ったりしますし、ネコならニャーと鳴いたり、ごろーんと寝っ転がったり、ネコパンチしたりします。ところがタヌキはほとんど鳴きませんし、しっぽも振りません。そもそも人間に関心を持っているようにも見えません(警戒しているらしい様子はわかります)。こちらが声をかけても無反応です。これでは何を考えているのかまったくわ

かりません。意思疎通なんて無理なことです。

それでも気持ちがわかる瞬間というのはありました。ある時のこと、タヌキ家族がネコエサを食べている様子を観察していたら、お母さんタヌキが私の方をじっと見つめています。そして少しずつ近づいてくるではありませんか。ま、まさか私に興味を持ってくれたのか?!と思っているうちにビデオカメラのすぐ前までやって来たのでした。「えっと…ご用は何でしょうか?」とたずねても答えてくれるわけはありません。お母さんはなかなか私のそばを離れようとしません。と、ここで私は思い至りました。お母さんは「メシくれ」と言っているのだと(苦笑)。毎日来てるわけではなかったのにすっかり顔を覚えられてしまっていたんですね。

イヌ、ネコこそ特殊な存在

タヌキのこういった様子を観察していると、逆にイヌやネコの方が特

殊なのではないかと思うようになりました。動物が人間の言葉を理解できないのは当たり前です。それができてしまうイヌやネコの方がよっぽど異常ではないでしょうか。なぜイヌ、ネコにはできるのか。それは人間とのつきあいが非常に長いからでしょう。イヌは1万年以上、ネコは5000年以上も前から人間と共に暮らしてきました。これだけの年月があればお互いの考えていることも少しは理解できるでしょう。

私たちは動物について考える時、イヌやネコを基準にして考えがちです。ですがイヌ、ネコこそ特殊な存在であり、野生動物と同一に考えることはできないということをおくべきです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です!

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>